

久納会計FAXニュース

ミャンマーに行って来ました

平成25年10月31日



Kunoh Accounting Office

久納公認会計士事務所

9月にミャンマーに行ってきました。ここ数年間でベトナム、タイ、中国(武漢・西安)、韓国、インドネシアに行きましたが、これまで行った中でも一番遅れている国であることは間違いありません。しかし、遅れているものの、将来性はかなりあり、日本にとっても良い友好国になるという印象を持ちました。

ミャンマーの人口など

ミャンマーの人口は約6千万人といわれています。ただ、ミャンマーではこの30年、国勢調査が実施されておらず、正確な人口がわからないのが実情です。

面積は68万平方キロメートルと日本の約1.8倍です。北は中国、東はラオス、南東はタイ、西はバングラデシュ、北西はインドと国境を接しています。首都はヤンゴンではなく、ネピドーです(2006年に遷都)。「ヤンゴン」は1898年まで「ラングーン」と呼ばれており、このため「ヤンゴン」という首都名も日本人にはなじみが薄いように感じます。

国名の由来

「ミャンマー」という国名もビルマという名前の方がわかりやすいという方も多いと思います。日本人には昔から「ビルマの豎琴」が有名ということもあるでしょう。この「ビルマ」というのは人口の6割をしめる、ビルマ族の民族名から由来しています。しかし、ミャンマーは100を超える民族からなる多民族国家です。それなのに一民族の名称を国名にするのはよくないということで、「ミャンマー」としました。

通貨

通貨はチャット、ksと略記します。9月の実勢

レートは1円がだいたい10チャットです。円に換算するには10分の1なので、一桁消して考えます。市中では円は全く使えません。USドルは使えるお店が多いのですが、両替所でドルからチャットに換えて使った方がレートの的に有利です。ミャンマーに行かれる方は、円をドルに換えて持って行き、空港あるいは市中の両替所でドルからチャットに換えることをおすすめします。

給与水準

給与水準は労働者で月収70ドルから90ドル。100ドルという話は聞きませんでした。ですので、7,000円から9,000円といったところです。中国・タイ・ベトナムと比べてまだまだ低い水準にあります。

国民性

国民性は9割が仏教徒ということもあり、大変穏やかです。日本人より敬虔な仏教徒が多く、自分のためより人のため、人のいやがることをしない、などの気持ちがあるそうです。その一つの証として、車のクラクションが少ないことがあげられます。大変うるさい中国とは大違いです。

識字率は92%で、発展途上国としては十分な高さです。また、いったん就職すると比較的長く勤める傾向があるそうです。こうしたことは企業にとってはプラスです。また、ミャンマー人はとにかく日本が大好きなようで、とても親日的な印象を受けました。

ミャンマー語(ビルマ語)

ミャンマー語(ビルマ語)は日本と文法が同じだそうです。日本語、韓国語と同様、助詞があり、単語の並び順が一緒です。国の場所は日本

と離れているのですが、どうもビルマ人はモンゴル系ようです。最近の日本人には少なくなってきましたが、ビルマ人の赤ちゃんにも「蒙古斑」があるということでした。

こうしたこともあり、現地の日本人からは「6ヶ月いたらミャンマー語が話せる」といわれました。日本人にミャンマー語に対する親和性があるということは、ミャンマー人にとっても日本語の親和性が高いということになります。そのため、日本語検定に合格するミャンマー人も多いということです。

日本車の中古ばかり

ミャンマーではとにかく日本車の中古が多く走っています。日本車ばかりといった方が適切な表現です。バスもトラックもです。バスは名古屋市バスのお古が、塗装も直さず、そのままの姿で走っていました。日本と違い右側通行なのに、ほとんどが日本車なので、みんな右ハンドルです。たまに左ハンドルの車があると、インドから輸入したスズキでした。

ミャンマーのインフラ事情

①電力 海外進出で一番の障害になるのはおそらく電力の問題でしょう。実際に泊まっていたホテルでも停電がありました。工場の操業には自家発電設備が欠かせず、コストを上げています。実際操業しているところでは、年間の総電力の2割程度を自家発電する必要があったそうです。街の飲食店でも、少し高級な店は自家発電設備を備えています。こうした電力不足については、近いうちに解消されるという話は聞きませんでした。

②水道 水道はよくありません。100年前のイギリス植民地時代の水道管をそのまま使用しているということで、ホテルでも茶色っぽい水が出ました。とても飲用には使えません。

③交通 東南アジアの例に漏れず、交通渋滞は激しいものがあります。鉄道はありますが、線路の材質が悪いため、速く走ることができず、時速30キロほどしか出せません。また、地下鉄

はありません。

④通信 携帯電話の音声通話はできますが、SMS、携帯メールは一切出来ません。インターネットはホテルと一部のレストランで無線LANによる通信が可能でした。通信速度は速くありません。

⑤ホテル・オフィス

ホテルも日本人が満足できそうなホテルは3つほどに限られており、かつ料金的にも高いものになっています。世界的な有名なホテルチェーンのホテルはまだありません。

ミャンマーの将来性を見越してやってくる外国人ビジネスマンは急増していますが、会社が入るオフィスも不足しています。そのため、一部のオフィスビルの賃料は高騰しており、進出しようとする企業の障害になっています。

他国との比較

このようにインフラが脆弱なミャンマーですが、ジェトロの海外投資アドバイザーの山口哲さんの意見では、海外進出する先としては、もうアジアではミャンマーしか残っていないということでした。

タイは失業率が現在0.5%で、労働受給が逼迫しており、これ以上の拡大は難しく、インドネシアはここ数年、大規模なストライキが発生し、賃金水準が大幅に上昇していることに加え、交通インフラが脆弱で、首都ジャカルタから工業団地まで車で何時間かかるかわからないような状況です。ベトナムもサムスンが進出し、それまで輸出1位だったキャノンを抜いたのですが、そのあおりで人件費が高騰したそうです。カンボジアは識字率が低く、マニュアルを読めないため、工場内のルールを徹底できないという弊害が出ていることなど、問題が多く発生しているそうです。

このような状況なので、今後ますますミャンマーに進出する企業が増えることは間違いありませんが、なかなか中小企業にはハードルが高いかもかもしれません。ご興味のある方は、久納までお知らせください。 (以上)